

平成27年度 燕市西蒲原郡家庭科部 活動報告

部長 栗林 一志

1 研究主題

実践意欲を高める家庭科指導の工夫

2 研究の概要

(1)第1回部会 <期日：6月3日(水) 会場：燕市立吉田小学校 家庭科室>

【「食」に関わる実技研修会】

「にんじんごはん・野菜の卵とじ・カレーもやし作り」

講師：燕市食生活改善推進委員協議会 加藤ヨウ子様 他6名

(2)第2回部会 <期日：12月2日(水) 会場：燕市立燕東小学校>

【授業研究】

単元名：「まかせてね 今日の食事」(6年生)

授業者：燕市立燕東小学校 橋本 直信 教諭

指導者：燕市立燕南小学校 栗林 一志 教頭

3 研究の実際

(1)第1回部会

昨年、課題にあがったことを受け、今回は『実際に授業で使える調理方法や食材を用いる』ということを中心に調理講習会を行った。「魚の缶詰を汁ごと入れると、だし汁を使用しなくてもよいし、風味が増す」等、子どもたちも活用できる多くの"裏技"を教えていただいた。

(2)第2回部会

【授業の様子】

授業者が「奥さんのために考えました」と、献立を見せ、栄養バランスや彩りに課題があることを全体で確認し、授業者の奥さんを喜ばせるための主菜と副菜をグループで考えた。その後、グループ活動で習得した献立の作成方法や他のグループの献立を参考にして、自分の家族が喜ぶための献立を考えていった。

【協議で話し合われたこと】

「ジャガイモが好きな奥さんのために」という具体的な相手意識があり意欲付けになった。また、ワールドカフェ方式での交流活動によって、目的意識をもって献立の説明を聞いたり、楽しんで聞きに行ったりと、全員の活発な言語活動が見られ大変効果的であった。また、「家族のため」という目標は、道徳との関連も図ることができ、大変よい。子どもたちの立てた献立が、その家族のために有効な献立であるか(栄養バランスや彩りなど)、栄養教諭や専門職等のゲストティーチャーの力を借りて評価してもらうなどの活動も、今後の子どもたちの知識の習得や家庭での活用につながっていく。



4 成果と課題

実技研修会では、ちょっとした工夫が『おいしい食事』や『調理の楽しみ・意欲』につながることを実感できた。「今後の授業で生かしていきたい。」という声が多く聞かれた。授業研究会では、交流活動を取り入れ、アクティブラーニングにつながる授業のヒントを共有することができた。今後も児童の実践意欲を高めるために、実技研修と授業実践を積み重ねていく。